

2022年4月19日

日本ストライカー 画像診断装置事業に参入

日本ストライカー株式会社（本社：東京都文京区）は、同社初の画像診断装置として、手術室内で使用できる可動式CT装置「Airo（アイロ）モバイルCT」の販売を4月より開始した。

この「Airo（アイロ）モバイルCT」は、リング状のX線CT撮影部分と患者を乗せるベッドが一体となっており、手術室への搬出入時の装置全体のサイズは、高さ2m、巾2.3m、奥行き60cm。モーター付きの車輪によって手術室に搬出入できる可動式で、広範な部位をスピーディーに撮影できる特徴を活かし発売初年度となる今年は脊椎疾患を重点領域としている。

また、「Airo（アイロ）モバイルCT」は、手術室の通常電源供給のみで1mを約40秒でCT撮影することが可能で、患者の体位を変えずに頸椎から骨盤迄の頸椎全体を撮影範囲としてカバーできる。これにより、脊椎変形疾患等の手術において骨組織をはじめ脊椎や周辺の血管などの解剖学的情報を3D構成したCT立体画像で術中に術者自ら確認する事ができる。

同社では、脊椎手術のみならず、今後臨床ニーズの高まりが予測される脳神経外科での開頭手術、整形外科での間接手術、さらに救急外来での幅広い領域で「Airo（アイロ）モバイルCT」の潜在ニーズの掘り起こしを積極的に進めていくとしている。